生活の苦労や文化の違いなど語る

外国人日本語スピーチコンテスト　大賞にオルテガさん（ペルー出身）

庄内地方在住の外国出身者による「第8回日本語スピーチコンテスト・in庄内」が18日、酒田市公益研修センターで開かれ、日本での生活の苦労や文化の違いなど日頃考えていることを発表した。審査の結果、大賞にはペルー出身で、今年4月から山形大農学部に留学し植物病理学を学んでいるモイセス・オルテガさん（22）＝鶴岡市家中新町＝が選ばれた。

2011年に出羽庄内国際交流財団が鶴岡市で始め、翌12年からは庄内地方の国際交流や日本語指導に関わるNPOなどによる実行委員会（齋藤園子実行委員長）が庄内各地で開いている。今回はベトナム、中国、ペルー、タイ、モンゴルの5カ国の6人が出場し、酒田市の日本語学習支援ボランティアべにばな会役員の宮崎重松さんら7人が内容や言葉遣い、表現などを審査。約100人が見学した。

大賞に選ばれたオルテガさんは「日本人とペルー人の文化の違いについて」と題してスピーチ。ペルー人については「『情熱、カラフル、幸せ』が好き。幸せは、愛する人たちに囲まれることで得られ、自分の考えや感情を表現することを大事と考える」とした。一方、日本人については「平静、平和、掃除、マナーを大切にする。人に迷惑を掛けないようにするのは、他人を尊重し、和を乱さないようにするためで、私が最も好きな日本の文化」とし、「住んでいる国の文化を理解し、尊重することは大事。所変われば品変わる」と結んだ。

そのほか、来日してコミュニケーションに不安がある中で、母国で祖父から「あいさつする時は笑顔で」と教えられたことを実践して心の支えにしているタイの女性や、最初は日本人が誰も話し掛けてくれないことに違和感を覚えたが、それが「恥ずかしいから」と知った後は打ち解け「日本が心から好きになった」というモンゴルの女性など、それぞれ悲喜こもごもの話に、見学者は真剣に聞き入っていた。

発表者の原稿は後日、本紙・荘内日報で紹介する予定。

大賞に選ばれたペルー出身のオルテガさん